

さんりんしゃ

園 だ よ り P H O N E 6 3 - 2 0 3 8 F A X 6 3 - 2 0 3 4



※ まず、子どもの話を聞く ※

～基本は家庭に～

先日の日曜保育参観時で、「今思う、子育て」と題して話をさせてい

いただきました。その中で、「4つの『める』（みつめる・たしかめる・ほめる・みとめる）と3つの『づく（ずく）』（気づく・うなづく・つづく）』について話しましたが、そのことを思い出しながら読んでいただければと思います。人間教育の基本は家庭にあると言いました。家の中に笑いがあるかということです。父親は中・高校生の娘と一日平均の会話はどれくらいだと思いますか？ビックリしますよ。28秒ですよ。たいていは学校、おもしろかったか？」と聞くでしょう。すると子どもが言うのは決まっているのです。8割は「別に」。

「別に」があつたら、次の言葉が出てこないでしょう。日頃から話していないから、会話がなから、子どもを本気になって叱っていないから、本気になって褒めていないから、子どもは離れていくのです。だって子どもをみてください。小さいときは親をみあげるんですよ。だんだん背が高くなって親を上から見ようになるんです。そうなったら、親の言うことをなかなか聞きません。どのくらい聞かないようになるかというのは、「聞く耳

をもたない」という状態になってきます。親と子の会話を多くする場づくりは、スポーツ観戦やイベントに出かけると効果的です。一緒に遊ぶ、一緒に体験していくことで心が通じ合い、会話がはずみ、そして笑いが家の中にどんどん増えて楽しくなります。

普段から、4つの『める』と3つの『づく（ずく）』を大切にしていけるのです。

小学生や中学生・高校生になって、友だちと仲良くなれなかったり、先生の話を受けなかったりする子がいます。

それは、親がそれまで子どもの話を聞いてこなかったことが、原因のひとつかもしれません。

話を聞いてもらったり、聞いてあげるといふ感性が子どもの中に育っていないのです。

小さな子どもは、親に毎日のさまざまな話を聞いてもらいたいという欲求がとても強いのに、それがずっと満たされなかったのです。子どもたちは、誕生会の際に「大きくなったら何になりたい？」という問いかけに「ぼくは建築家になりたいとか、警察官になりたい」という夢を語ってくれます。

要は、自分の気持ちを聞いてもらえる人や、聞いてあげる人を見つけることがいいのです。子どもは、たくさん聞いてもらうことで安心するのです。顔の表情は大切です。受け入れ、共に楽しむ雰囲気づくりが重要です。



子どもたちに育ててもらいたい「6つの気」

子どもたちに育ててもらいたい「6つの気」があります。

まず一つ目は、「元気」です。よく食べてよく動く（遊ぶ）子どもは元気です。元気は6つの気の元になるものですが、子どもの元気がなくなるのには原因があるのです。「元気がない。あれっ、今日何かあったのかな」と。そして元気がないのは、たいてい友だちのことが多いのです。子どもの気持ちが沈んでいるときに、子どもの気持ちを聞いてあげます。すぐに、「あんたが間違えてる」と言わないで、子どもの味方になって聞いてみる。うなずいて聞いてあげる。それだけでいいのです。お母さんは子どもの元気を再生させる大切な人です。



二つ目は、「勇気」。これは人とのコミュニケーションで一番大切ですね。勇気というのは言葉で、表情で相手に「言う気」です。思い切って自分の気持ちを相手に伝える気です。

三つ目は、「やる気」です。やる気は相手と一緒にやりましょうと協力を惜しまない大切な気です。あるときは、自分が進んでリードしたり、後から押していったりするような気です。遊びも学びも友だち関係

でも、この気が大変役に立ちます。

四つ目は、「本気」。本気はときどき親が見せて子どもにつくってあげる気です。「あなたはそうしたらよくないのでは」と本気で言う。「いいことをしたね」と本気でほめる。特にそのときは、目を見つめなければいけません。そして、子どもの行動を認めないとはいけません。間違ったところは、やがて大切な体験となって、プラスになります。



あと二つは、人に見せないほうがいいと思われる気です。それは、「根気」と「のん気」です。ものごと大切にるのは、やる気と粘りでとことんまでという根気づくり。ただ、一生懸命なだけでは、身体と心が痛みます。だから、親も子ども生活の中で、のんびりとする時間をつくります。自然に接したりペットや趣味、親子のコミュニケーションでつくっていきます。これが「のん気」です。

家族は運命共同体です。互いに思いやりのある言葉と行動で表現する、そのために親の立場、子の立場を十分理解し合って親子の絆を深めてください。